

ショパンのプレリュードの研究

——ポーランド国立図書館蔵の自筆譜の研究Ⅲ——

A bibliographical study on Chopins Preludes op.28
by autograph note in Polish National Bibliotek. [3]

佐藤 允彦

相愛大学研究論集 第2巻（昭和61年1月発行）の中に、ショパンのプレリュードの研究——ポーランド国立図書館蔵の自筆譜の研究Ⅱ——を発表した。この論集の編集の最終段階での校正が、研究者の思う通りに運んでおらず、従って意味不明のところが多数あったことを、今回の序文のはじめにお詫びし、あわせて補足を加えなければならない。

13頁、および14頁にフォト・コピーを掲載したが、24点のコピーはすべて、プレリュード各曲の終りに記されたショパン自身の手による Fine の文字を並べ、その比較をしたのである。その説明と曲の番号が欠落していたため、何を意味するか不明になってしまっていた。今回の論文でも、ショパンの筆跡の研究が不可欠になっているだけに、更めて掲載し、ここに説明を補足する次第である。

前論文の中で、ショパンの自筆プレリュードの楽譜を詳細に検討した結果、プレリュード作曲の第一曲が、第23番へ長調にはじまり、次いで第24番＝短調にすすんだものである、という仮説をたて、その事実を証明するために、インクの色の違いからはじめ、一番濃度の濃いものをアトラメントA、中間の濃度のものをアトラメントB、一番淡い色調のものをアトラメントCとして観察をすすめてきた。

1986年夏、ポーランド国立ショパン協会のアルヒーヴを訪ね、プレリュードの各種資料を調査したとき、フランス、ドイツ、イギリス各国に於ける初版のコピーを入手することができた。本論文では、新しく入手した各国の初版本とショパンの自筆譜との比較研究をするのが目目的である。しかし、残念ながら、フランスの初版権を入手していた AD. Catelin の初版楽譜は、第11番ロ長調まできりなく、以後の分は未だ資料の中に入っていない。したがって、Catelin 社より版権を買いとり、完全な形で残っている Brandus 社の社版楽譜をこの研究でとりあげることにした。以下 Brandus 社の初版楽譜を参考資料の記号に従って FB とし、ドイツの初版を DB、イギリスの初版本を EW として記述する。

• 第23番、へ長調、(譜例 FB-1、DB-1、EW-1、参照)

第1小節（以下Bとする）FB と EW にはショパンの自筆譜と大きな違いは見ることがで

きないが、DB の左手第 1 音のアルペッジオ記号が欠けている。このアルペッジオの欠落は、資料楽譜 BH 版に於いてもみられ、Brahms などが参加して校正発行した Breitkopf 社のショパン全集編輯の折にも、この DB 初版楽譜の通りにされたものと思われる。現在使われている楽譜の中では、Kalmus 社3343でもこのアルペッジオがないが、同じ Calmus 社の3332・資料 KA3 では、アルペッジオが記入されている。

B.2. DB 版はショパンの記入している通り、左手第 2 音の アッポジアトゥーラからのフレーズを使っているが、FB 版、EW 版は第 3 音の アッポジアトゥーラからのフレーズをとっている。これは、ショパンの自筆譜 AA とは大きく違い、演奏上に大きな変化を生じることにつながりつつものである。これは写譜者の見誤りの結果生れたものであろう。シャーマー SC.1 版、ペテルス PT.1 版、ペテルス PT.2 版、リコルディ RI 版、カルマス KA1 版、デュラン DU 版の各版では、ショパンの記譜通りになっているが、その他はアッポジアトゥーラの後のトリルからのフレーズとなっている。

B.6 B.2 と同じ書法が見られるのだが、DB 版のみは、ショパンの書法通りになっているが、他は B.2 と同様のフレーズをとっている。

B.10 及び18でも DB 版のみが、ショパンの書法通りであり、他はトリルから、となっている。

DB 版に於ける右手のフレーズは、ショパンの書法とは全く違っている。FB 版、EW 版ともに、2 小節単位、4 つのフレーズの後、14 小節の長いフレーズとなっているのであるが、DB 版のみは、最初の 2 小節の後20小節の長いフレーズをとっている。このエディションによる BH 版は、同様の長いフレーズをとっている。

・第24番、ニ短調（譜例 FB 版、2 から 4、DB 版 2 から 5、EW 版 2 から 5 を参照）
・1986年夏の調査の折、あらためて第23番と24番との連続性について調査してみた。リーフの状態や書法、かきつぶしの後などから判断して、やはり前論集に記述した通り、ヘ長調の後にニ短調を作曲しているとの確信を強めた次第である。この曲については初版楽譜とショパンの自筆譜の間には、かなり違いがあり、ショパンの書き方の誤りか、写譜をした Fontana の善意による加筆による変化なのかは、かなり大きな問題でもあり、演奏する場合は一度ショパンの原譜にかえり、そこから演奏者の解釈によって解決するのが良いと思うが、本論文の中では、ショパンの自筆譜と初版本との間の違いを指摘してゆく。1839年1月22日、パリにいた Fontana にプレリュードを送る際にショパンが書いた手紙の中に『プレリュードを送ります。君と Wolff とで写譜して下さい。間違いはないと思う。写譜は Probst に、自筆譜は Pleyel に渡して下さい。』と書いている。残念ながら、ショパンの書簡集の翻訳《ショパンの手紙・アーサー・ヘドレイ編・小松雄一郎訳・白水社・昭和65年4月25日発行》は、ポーランド語から英語に翻訳したヘドレイ氏の誤訳によって、「君とヴォルフのために全部写しました。間違いは一つもないとは思っていません。」という訳になっている。ショパンの手紙はそれとは違

って、かなり調子の強いもので、プレリュードを送る、と書き、続けて命令文で『君と Wolff とで写譜してくれ』という調子がつづき、更に『誤りはないと思う』と言いきっている。

このショパンの確とした自信にみちた文章と、写譜者である Fontana と Wolff がショパンの書き落とし、又は明らかなミスと認めたとところに加筆したのかも知れないという二つの立場がここにある。Fontana の写譜した分は、ショパンの筆跡に似せるのが得意であっただけに、Breitkopf 社に送られ、Wolff の写譜したものが、多分 Wessel 社に送られたものと推定することができる。

B.3. ショパンの自筆譜では、右手第一音にアクセントを記入したものが、大きく書きすぎたために、ウェッジと解釈され、FB 版と EW 版では、第 2 音に至るウェッジとなっている。しかし DB 版では、アクセントもウェッジも書かれていない。BH 版、KA3. 版の各版も同様に、ウェッジもアクセントも記入していない。PT.1 版、PD 版、PT.2 版、RI 版、KA.1 版の各版は、第 3 音に至るまでのウェッジと解釈しているが、SC.1 版、SC.2 版、BH 版、KA.2 版は、第 2 音までのウェッジとし、WU 版、HV 版の二版は、第 2 音に至るまでのウェッジとして記入されているが、これは明らかにアクセントである。

B.4 の第 2・3・4 音にわたるウェッジも DB 版では欠落しているが、FB 版、EW 版では書かれている。BH、KA.3 の両版では、前と同様にこのウェッジは書かれていない。

B.5. PD 版と RI 版は、自筆譜が 2 分音符と付点 8 分音符がタイで結ばれているのに対して、付点 4 分音符と 4 分音符がタイで結ばれた形に変えられている。

B.7. 右手のフレーズが、FB 版と EW 版では欠落している。右手第 3 音につけられている裝飾音は DB 版では、16 分音符 3 つの形になっているが、AA では 8 分音符 3 つに書かれており、FB 版と EW 版でも同様になっている。

B.8. 自筆譜ではヘ音からフレーズがつけられているのに、FB 版と EW 版ではイ音からフレーズがつけられている。この 2 つの初版以外の楽譜では、すべて自筆譜通りとなっている。

B.9. 自筆譜では、9 小節迄は左手が同じ音形を続け、したがって左手の大字イ音が 4 分音符の形となっているのに、FB 版と EW 版ではこの 8 小節迄となって符尾を欠いている。両版では 8 小節迄の大字イ音に符尾がつけられている。ショパンの自筆譜 AA では、明らかに 9 小節目までこの符尾がつけられている。現行の楽譜で、楽譜 AA と同形をとっているのは、PD 及び KA.3 版のみで、FB、EW 版と同じものとしては、SC.1 版、WU 版と HV 版をあげることができる。ピアノ奏法の上から考えれば、この大字イ音の保持が演奏し易いため、各エディションによって違った風になっている。SC.2 版では、15 小節まで左手第 2 音をホールドするように書いているし、PT.1 版では 11 小節まで、BH 版では SC.2 版と同じにし、PT.2 版も PT.1 版と同じ、RI 版では 19 小節までのホールディング、KA.1 版は PT.1 及び PT.2 と同じ、KA.2 は 10 小節の第 2 音まで、DU 版も 11 小節とするなどの特徴をみることができ

る。こうした違いは、各校訂者のピアノスティックな経験や奏法上の違いを示しているが、一方ではこうしたホールディングが多用されるということは、ショパンの予想していない対位旋律ととらえられることもあり、解釈上では問題を提起する点といえよう。

B.16. 自筆譜 AA では、左手第5音と第10音の小字ロ音にナチュラルがつけられていない。又、第7音の大字ロ音のナチュラルも記入されていない。この点に関しては、右手が1点ロ音にナチュラルのついたトリルを続けることから考えると、当然こうしたロ音にはナチュラルが記入されるべきで、初版の各版はこのナチュラルを加筆している。

B.18及び19. 自筆譜 AA によると第18小節第2音である小字ハ音と第19小節の第1音の3点イ音は、作曲当初に記入され、その間のスケール風の経過音は、明らかにマヨルカで加筆されたということが読みとれる。ショパンは、この経過音を細かく書きこみ、臨時記号も記入しているが、1点ヘ・ト音のシャープとロ音のナチュラルは記入しているものの、そのオクターブ上にある2点ヘ・ト音のシャープとロ音のナチュラルを記入していないし、3点ヘ・ト音のシャープの記入もしていない。FB版では、ショパンの記入通りになっており、他のDB、EW版では、2点音以上の音に臨時記号を書き足している。こうした例は、他の経過音の中にもみられるため、当然書くべきものを書かなかつたとみることもできるが、フランスの初版のみが2点ハ音以上の臨時記号を記していないことは、この校正をショパンがしたか、自筆稿通りとするように出版社に申し渡し、そのままになっているのではないだろうか。若し、Fontana か Wolff が校正していたら、写譜したときのようにこれらの臨時記号をつけたことであろう。ちなみにショパンの楽譜通りに弾くと、耳なれた音ではないとしても、大変面白い音になってひびいてくる。

B.27. 右手旋律の1点ロ音は、自筆稿ではナチュラルを欠いている。初版楽譜のいずれもが、ナチュラルをつけているのに、自筆稿のみナチュラルがみられる。旋律の流れからいえば、当然、ナチュラルがつかなければならないのに、試みにショパンの記譜した通りに弾いてみると、必要以上に刺戟的な音となる。B.41に至るまでの強烈な旋律と解釈しても、この音は妙に刺戟的であり、これはショパンの誤りだとみる方が良いのではないだろうか。

B.32～33. B.32の第一音小字ト音とB.33の第一音3点ハ音は、こうした経過音の例にもれず、前もって記入されていたものである。その間の経過音は、マヨルカで書きこんだとみることができる。この経過音でも、B.18の例と同じように、小字ロ音、1点ロ音のナチュラルは記入しているが、2点以上のロ音にはナチュラルはつけていない。左手の大字ロ音にはナチュラルがついているため、1点ロ音までは自然な響きを楽しめるのであるが、2点以上は自然に流れず当然ながら非和声音として聞こえてくる。DB、EWの両初版ともに、この音にはナチュラルを加えているが、フランス版のみ、ショパンの原譜通りになっている。B.18と同様に現在使われている各版では、それぞれに加筆した形で出版されているが、ショパンの記譜通りに弾くと不自然であることから、これは誤記と見做す方が良いのではないだろうか。

B.36~37. この部分でも小字と1点ニ・ヘ音のシャープはつけられているが、それ以後の2オクターブではつけられていない。DB、EW版では、きっちり記入されているが、FB版はショパンの原譜通りのままである。更に左手の第5音のシャープが、自筆譜には記入されていない。ここは、明らかに間違いであり、2点及び3点にもシャープがなければ、実に来たない音となる。左手の小字ヘ音のシャープはFB版には落ちており、ここでも同じ初版本ながらフランス版だけの特徴を示している。

B.38. 自筆譜では、B.37にはじまる旋律の上にはっきりとアクセントが記入され、かつB.38の左手バスの第1音と第6音にも確かな筆致でアクセントが記入されている。しかし、DB版ではB.37のアクセントを欠いている。

B.42. 左手の動きは、大字ハ音—同変イ音—小字変ト音—大字ハ音—小字イ音と自筆譜では記入されている。右手は、B.41の1点変ホ音とタイで結ばれた第一音に対し、第二音から、この曲の第1動機の変形がみられるのだが、この1点イの音にフラットがつけられていない。B.41での1点イにフラットが附く変イ音を用いているだけに、変イ音に書くことを省略したとみられ、この部分が変イを用いたへ短調に転調していることから判断すると、このフラットの欠落も、ショパンの誤りとみるべきである。FB版のみが、左手第2音が小字ハ音にフラットをつけ、変イ音になっておらず、他の版とは違った音となる。

B.55~56. 2小節にわたる3度の下降スケールは、最初から記入されていた濃いアトラメントで記入されている。それにつけられた臨時記号も他と同様に、作曲当時からつけられていたものではなく、マヨルカで記入されたことが明白である。

B.61. 第1音につけられたフォルテの記号は、ショパンの自筆譜ではフォルテ・フォルテシモで書かれているが、DB、EW版共にフォルテとなっている。

B.70. 自筆譜では、右手第1音がオクターブとなっているのに、FB版のみ、4点ヘ音の単音になっている。

このたび、英・独・仏・の各国での初版のコピーを入手できたことから、この研究は一時停滞した形となっている。前論で、へ長調の第23番より着手したことを明らかにしてきたが、新しく手に入れた、各初版本の間にも、大きな違いがあることが判明した。特にフランス初版FBでは、その違いが、DB、EWと比較しても顕著であり、ショパンの自筆譜と近いことが判明してきた。この事実は、ショパン自身がこの版の校正をしたか、あるいは校正なしに済ませたかのいずれかであろう。

現在、多くのピアニストに使われている各種楽譜との比較研究がもっとすすめられれば、ショパンの自筆譜との差が当然大きくなり、演奏に与える影響は多いものと思うが、今回の研究ではショパンの自筆譜AAを中心に初版との比較において論文を展開してきた。ショパンが自信をもって書いたように、『誤りはない、と思う』の一文は、『誤りはない、……と思う』に

訂正しなければなるまい。

本論文の目的として、作品28・プレリュードの各曲の作曲の時期の解明をあげてきた。そのために、入手できる範囲の自筆譜のコピーを用い更にこの論文の目的にむかっていきたい。尚、初版の各種コピーは、コピーから更にコピーしたものであり、判然としない部分もあるが、このコピーを作成し提供してくれたポーランド国立ショパン協会に感謝する次第である。

参 考 資 料
楽 譜

- 1 AA 自筆稿 (Autograph).
- 2 FA 複写譜 (Faksimilowane Wydanie Autografow F. Chopina-Zeszyt I. Fryderyk Chopin 24 Preludia. Rekopis Biblioteki Narodowej w Warszawie. wstepem opratrzył Władystaw Hordyński. Polskie Wydawnictwo Muzyczne, Kraków 1951).
- 3 FC フランス版、カトラン版初版本 (24 Préludes pour le piano, dédiés à son ami Camille Pleyer, par Fré. Chopin. 1 livre. Divisé en deux Livres. Prix F^{te} 50. Paris, chez AD. CATELIN et C^{ie}. Editeurs des Compositeurs réunis, Rue Grange Batelière. No. 26. AD. C (560) et C^{ie}. Londres, Chez Wessel et C^o. Leipzig, Chez Breitkopf et Haertel.)
- 4 FB フランス版、ブランデュ社 (24 Preludes pour le piano, dédiés à son ami Camille Pleyer, par Fréd. Chopin op. 26. Divisés en deux Livres Prix q^f. No. . Paris, Chez Brandus et C^{ie}. Editeurs 103 Rue Richelien. St. Petersburg, Maison Braudus. B. et C^{ie}. 4594. Londres, chez Wessel et C^{ie}. Leipzig, chez Breitkopf et Haertel.)
- 5 DB ドイツ版、初版、ブライトコップ・ウント・ヘルテル社、(Vingt-quatre Préludes pour le piano, dédiés à son ami J. C. Kessler par Fvéd. Chopin. Oeuvre 28. Propriété des Editeurs, Pr. 2 Rthlv. Leipzig chez Breitkopf & Hävtel. Paris, chez Pleyel & Co. 6088. Enregistré dans L'Archive de L'Union.)
- 6 EW イギリス版、初版、ウェッセル社、(Book of Twenty Four Grand Preludes through all Keys. for the Piano Forte. dedicated to his friend. Camille Pleyel by Fred. Chopin. Performed by the author at the court of St. Cloud. Copyright of the publishers. op. . Ent. Sta. Hall. Price 6/ca. this work for p. s. Book 5 & 6 of Chopin's Grand Studies. London. Wessel & Co. Importers of Foreign Music & Publishers of all the Works of Chopin. Kuhlau. Hummel. & C. No. 67 Frith Street. Corner of Soho Square. Paris. Catelin & C^o. Leipzig Breithopf & Co.)
- 7 SC. 1 シャーマー版楽譜、(Schirmers Library of Musical Classics. vol. 1547 Carl Mikli edition.)
- 8 SC. 2 シャーマー版楽譜 (Schirmers Library of Musical Classics. Vol. 34. Rafael Joseffy edition.)
- 9 PT. 1 ペテルス版楽譜 (Edition Peters. Nr. 1908a. Herrmann Scholtz ed.)
- 10 PT. 2 ペテルス版楽譜 (Edition Peters, Leipzig, No. 6217. Herrmann Scholtz).
- 11 PD パデレフスキ版楽譜 (Chopin Complete Works editor Paderewski I. P. W. M)
- 12 WU ウィーン原典版楽譜 (Chopin, 24 Preludes op. 28. Hausen/Demus. Wiener Urtext Edition. UT 50005 Musikrerlag Ges. m. b. H. & Co., K. G., Wien.)
- 13 HV ヘンレ版楽譜 (Frédéric Chopin Préludes. Nach Eigenschriften und den Erstausgaben Herausgaben und mit Fingersatz Versehen von Hermann Keller. G. Henle Verlag München-Dui-

ショパンのプレリュードの研究

- sburg.)
- 14 CO コルトオ版楽譜 (Chopin 24 Preludes op. 28 students.' edition by Alfred Cortot. Trons 1. by David Ponsonby. Editions Salabert, Paris.)
 - 15 BH ブライトコップ・ウント・ヘルテル版、(Preludes, Scherzos, Impromptus für das Pianoforte von F. Chopin. Neue Ausgabe. Leipzig Breitkopf & Härtel 11638.)
 - 16 RI リコルディ版楽譜 (Ricordi, Chopin, 24 Preludii op. 28 per Pianoforte · Brugnoli-Montani. E. R. 2521).
 - 17 KA. 1 カルマス版楽譜 (Kalmus Academic Series · Alexander Lipsky. 3337).
 - 18 KA. 2 カルマス版楽譜 (Kalmus Piano Series. Ed. Mertke. 3332).
 - 19 KA. 3 カルマス版楽譜 (Kalmus Piano Series. "First Critically revised Edition", 3343).
 - 20 DU デュラン版楽譜 (Edition Classique Durand. Claude Debussy.)

文 献

- A Maurice. J. E. Brown; Chopin: an Index of his works in chronological order. Robert Maclehose and co LTD. University Press. 1972.
- B Krystyna Kobylńska; Rekopisy utworów Chopina Katalog Im Verlag Polskie Wydawnictwo Muzyczne, G. Henle Verlag München. Krakau 1977.
- C Krystyna Kobylńska; Rekopisy Utworów Chopina Katalog Vol. 1 Polskie Wydawnictwo Muzyczne 1977.
- D Krystyna Kobylńska; Rekopisy Utworów Chopina Katalog Vol. 2 Polskie Wydawnictwo Muzyczne 1977.

A page of handwritten musical notation for Chopin's Preludes. The page contains ten staves of music. The top two staves are almost entirely obscured by dense, dark scribbles. The middle six staves contain clear musical notation, including notes, rests, and bar lines. The bottom two staves also contain musical notation, with some scribbles at the end of the piece. A Roman numeral 'XIX' is written in the center of the page, between the sixth and seventh staves.

A page of handwritten musical notation consisting of ten staves. The notation is dense and includes various musical symbols such as notes, rests, and dynamic markings. The word "piano" is written in cursive on several staves. There are also some scribbled-out areas and a circled number "6" at the end of the eighth staff. The handwriting is somewhat messy and expressive, suggesting a working draft or a composer's sketch.

A handwritten musical score for piano, consisting of six systems of two staves each. The notation is dense and expressive, featuring various dynamic markings and articulations. The first system is marked *gmo* and *lento*. The second system is marked *un forte* and *rit*. The third system is marked *rit*. The fourth system is marked *rit*. The fifth system is marked *rit* and *rit*. The sixth system is marked *rit*. The score includes various musical notations such as notes, rests, and slurs, with some markings appearing to be in a different script or shorthand.

譜例 FB-1

Moderato.

P. delicatis.

XIII

Ped:

Ped:

Ped:

Ped:

poco riten. in Tempo.

Ped:

Ped:

Ped:

loco

dim

smorz

Ped:

Ped:

Ped:

Ped:

227

The musical score is arranged in six systems, each with a treble and bass staff. The notation includes various dynamics such as *ff*, *cres*, *p*, *f*, and *strettò*. Pedal markings are indicated with diamond symbols and the word "Ped:". Performance instructions like "Inco." and "strettò" are also present. The score ends with a double bar line and a fermata.

É. L. ... 5, et Cie 1594. Baudouin & Co 97 rue Richelieu.

All^o appassionato.

No 24.

6088.

ショパンのプレリュードの研究

譜例 DB-3

The musical score is presented in two systems, each with a grand staff (treble and bass clefs). The first system begins with a piano (p) dynamic and includes a *sempre forte.* instruction. The second system features a *tr* (trill) marking and a *loco* instruction. The score is heavily annotated with *Ped.* (pedal) markings and diamond symbols (◊) indicating specific pedal changes. The bass line consists of a steady eighth-note accompaniment, while the treble line contains the melodic material, including a prominent trill and a *loco* passage. The piece concludes with a *6088.* marking at the bottom center.

ショパンのプレリュードの研究

譜例 DB-4

The image displays a musical score for Chopin's Preludes, Example DB-4, consisting of seven systems of piano and bass staves. The score includes various performance markings and dynamics:

- System 1:** Treble clef with a trill (*tr*) and a fermata. Bass clef with a fermata. Pedal markings (*Ped.*) are present in both staves.
- System 2:** Treble clef with a *lento.* marking. Bass clef with a fermata. Pedal markings (*Ped.*) are present in both staves.
- System 3:** Treble clef with a *con forza.* marking. Bass clef with a *cres.* marking and a fermata. Pedal markings (*Ped.*) are present in both staves.
- System 4:** Treble clef with a *p* marking. Bass clef with a fermata. Pedal markings (*Ped.*) are present in both staves.
- System 5:** Treble clef with a *f* marking. Bass clef with a *cres.* marking and a fermata. Pedal markings (*Ped.*) are present in both staves.
- System 6:** Treble clef with a fermata. Bass clef with a fermata. Pedal markings (*Ped.*) are present in both staves.
- System 7:** Treble clef with a fermata. Bass clef with a *ff* marking and a fermata. Pedal markings (*Ped.*) are present in both staves.

At the bottom of the page, the number 6088 is printed.

譜例 DB-5

The musical score consists of seven systems of piano and bass staves. The first system is marked *loco*. The second system includes a *rit.* marking and a *cres.* marking. The third system is marked *loco* and *stretto*. The fourth system is marked *sempre st.*. The fifth system is marked *loco*. The sixth system is marked *loco*. The seventh system is marked *stretto.* and *loco*, and ends with a *Fine.* marking. Pedal points are indicated by *Ped.* with a circled diamond symbol. The score includes various musical notations such as slurs, ties, and dynamic markings.

譜例 EW-2

ALLEGRO APPASSIONATO.

Nº 24.

f

pp

mf

p

pp

ff

pp

ppp. * ppp. * ppp. * ppp.

tr

gru

ppp. * ppp. * ppp. * ppp.

gru

loco.

ppp. * ppp. * ppp. * ppp.

Con Forza.

PF.D. * *PF.D.*

p

* *PF.D.*

ff *Gres.....*

* *PF.D.* * *PF.D.*

Bra.....

cen do ff

loco.

* *PF.D.*

CHOPIN, 24 Grand Preludes, Bk. 2.

(W & C^o N^o 3099.)

ショパンのプレリュードの研究

譜例 EW-5

24